



## 正しく知ろう！インフルエンザのあれこれ

### 1：インフルエンザとは

毎年秋から冬にかけて流行するインフルエンザですが、ここ 3 年程は新型コロナウイルスが猛威を振るい、あまりインフルエンザの流行はありませんでした。しかし、今年は 9 月ごろから季節外れの流行となっています。今回は、数年ぶりの流行となったインフルエンザについて、治療薬や予防法についてお伝えしたいと思います。

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる呼吸器感染症のことです。一般の風邪よりも症状が重くなりやすい疾患で、A 型、B 型に分かれており、冬季に流行します。多くの場合、1～3 日の潜伏期を経て、発熱（38℃以上）、頭痛、悪寒、関節痛などの症状が現れます。高齢者、慢性呼吸器疾患や糖尿病などの基礎疾患を持つ患者さんでは、インフルエンザウイルスに加えて二次的に細菌性肺炎を合併することがあり、致死率が高くなります。また、乳幼児ではインフルエンザ脳症を併発し、重症化することもあるため注意が必要です。



### 2：風邪とインフルエンザの違い

風邪とインフルエンザは、どちらも呼吸器感染症ですが、原因となるウイルスや症状などに違いがあります。それぞれの症状の違いなどを下記にまとめます。

	風邪	インフルエンザ
原因	アデノウイルス、ライノウイルスなど	インフルエンザウイルス
初期症状	のど・鼻の違和感、くしゃみ	悪寒、頭痛
主な症状	のどの痛み、咳、鼻水、鼻づまり	発熱、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感
発熱	多くは 38℃以下	38～40℃（3～4 日間）
合併症	まれ	気管支炎、インフルエンザ肺炎 重症化すると脳炎・脳症

風邪をひいたときは市販の風邪薬や解熱鎮痛薬を使うことがあると思います。しかし、インフルエンザによる発熱では、アスピリンなどの解熱鎮痛薬を使った場合に、小児ではインフルエンザ脳症・脳炎の重症化リスクが高まるという報告があります。市販の風邪薬や解熱鎮痛薬の中にはアスピリンを含むものもあるため、インフルエンザかも？と思った時は、まずは医療機関を受診しましょう。

### 3：インフルエンザの治療薬

インフルエンザの治療薬には、飲み薬、吸入薬、点滴の3剤形があります。（下表）  
また、これらの薬は治療として使用する以外に予防として使用することも出来ます。

	タミフル® (後発品：オセルタミビル)	ゾフルーザ®	リレンザ	イナビル®	ラピアクタ®
投与経路	経口	経口	吸入	吸入	点滴
投与回数※1 (治療)	1日2回 5日間	1回	1日2回 5日間	1回	1日1回 約2日程度
投与回数※1 (予防)※2	1日1回 7~10日間	1回	1日1回 10日間	1回	なし

※1：成人の場合

インフルエンザの治療薬は、発症してからできるだけ早く使用を開始し、48時間以内に開始するのが良いとされています。インフルエンザが疑われる場合は、すぐに医療機関を受診するのが望ましいです。

※2：予防投与については、自費診療（保険適応外）となります。

### 4：インフルエンザワクチン

インフルエンザワクチンはその年に流行するウイルスの型を予測して作られます。「不活化ワクチン」と呼ばれるワクチンに分類され、ウイルスの成分は入っていますが、ウイルスそのものが入っているわけではないため、ワクチンを接種することでインフルエンザを発症することはありません。

インフルエンザワクチンを接種すると、インフルエンザの発症の予防や、発症したとしても症状が重くなりにくくなる効果があります。



#### 接種するタイミング

ワクチンを接種しても効果が出る（免疫がつく）まで、2週間ほどかかるとされています。大事なイベントなどがある場合は、ある程度余裕をもって接種しましょう。

また、インフルエンザワクチンは新型コロナウイルスのワクチンの接種と間隔を開ける必要はなくなりました。

#### 定期接種について

65歳以上の方（または60~64歳の方で条件に当てはまる方）は、インフルエンザにかかるると重症化しやすいため、定期の予防接種の対象となっています。予防接種を希望する方は、かかりつけ医と相談の上、接種を受けるか判断してください。

### 5：インフルエンザを予防しよう

ワクチンの接種に加え、手洗い・うがい、マスクの着用などの基本的な感染対策がインフルエンザの予防には重要です。また、免疫力を高めることもインフルエンザの予防につながります。適度な睡眠、バランスの良い食事などを心掛けて過ごすようにしましょう。

参考資料：[第5版] 新しい微生物学

令和5年度インフルエンザQ&A | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)

<https://www.mhlw.go.jp/content/000574837.pdf>

文責：倉城有稀（実習生）、岡田雄貴（薬剤師）